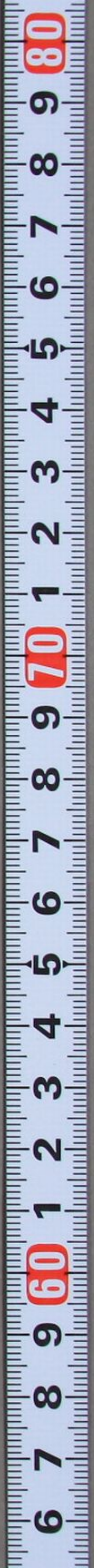


金譜

全



福園主人編輯

金譜

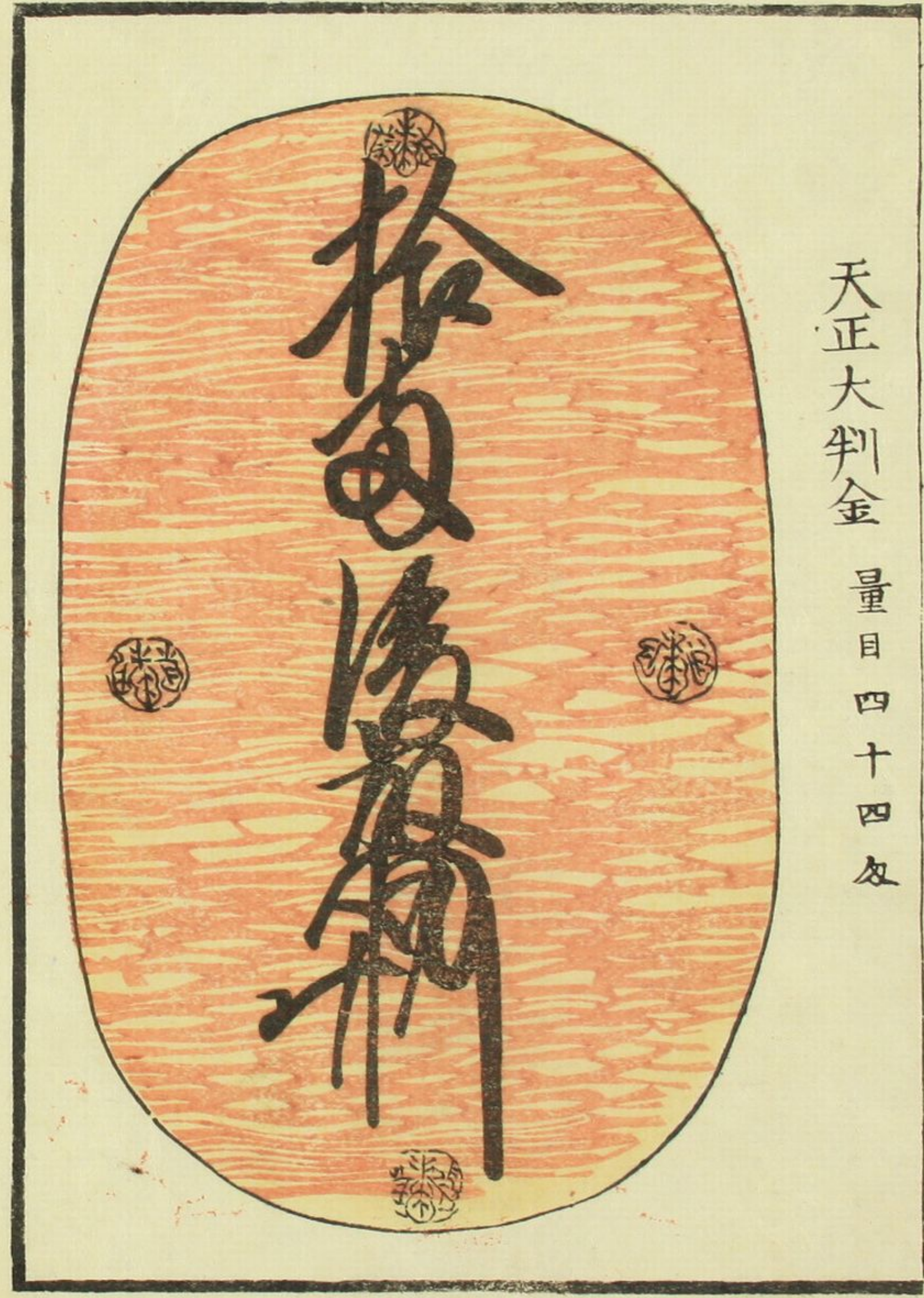
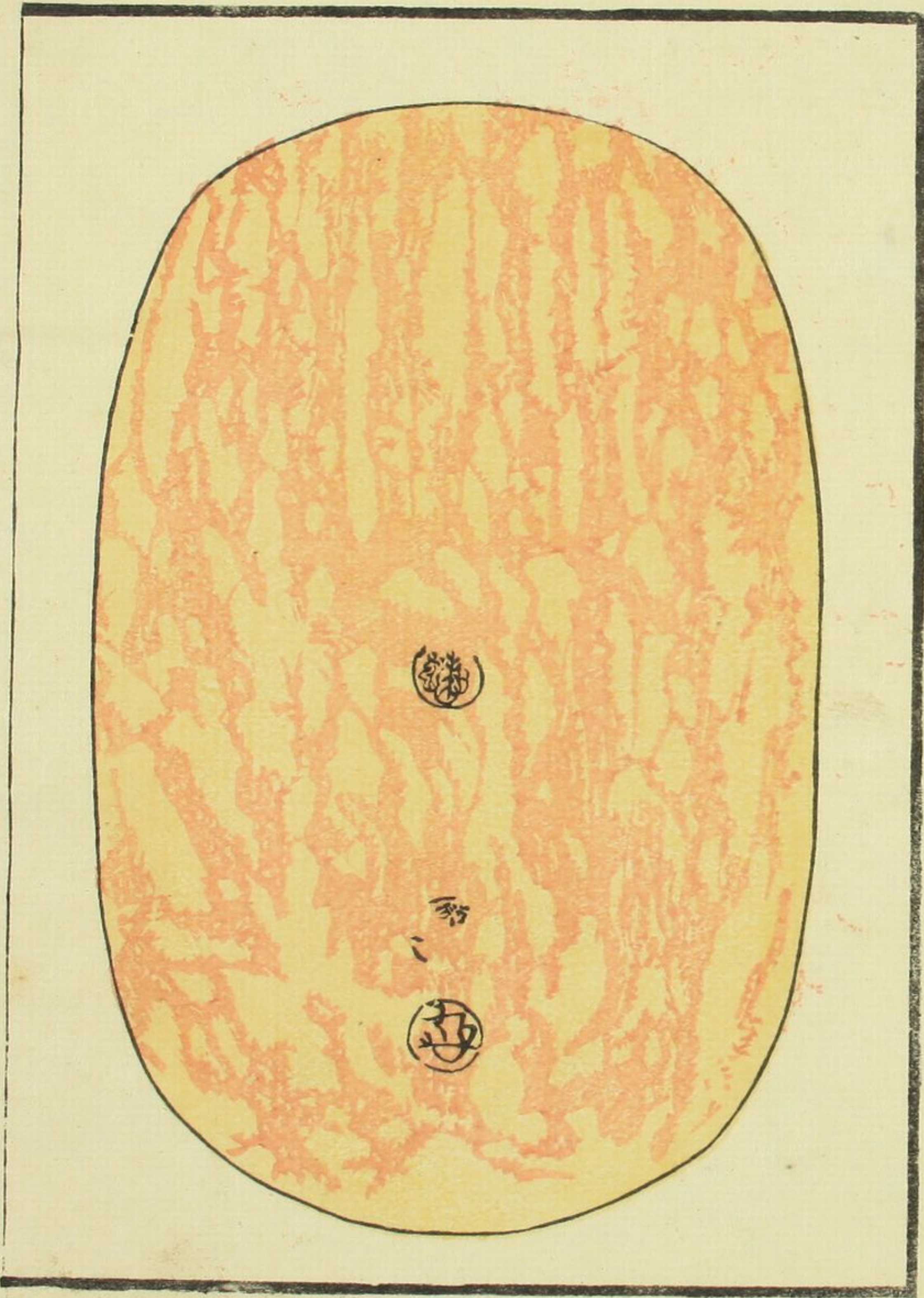


永松堂藏板



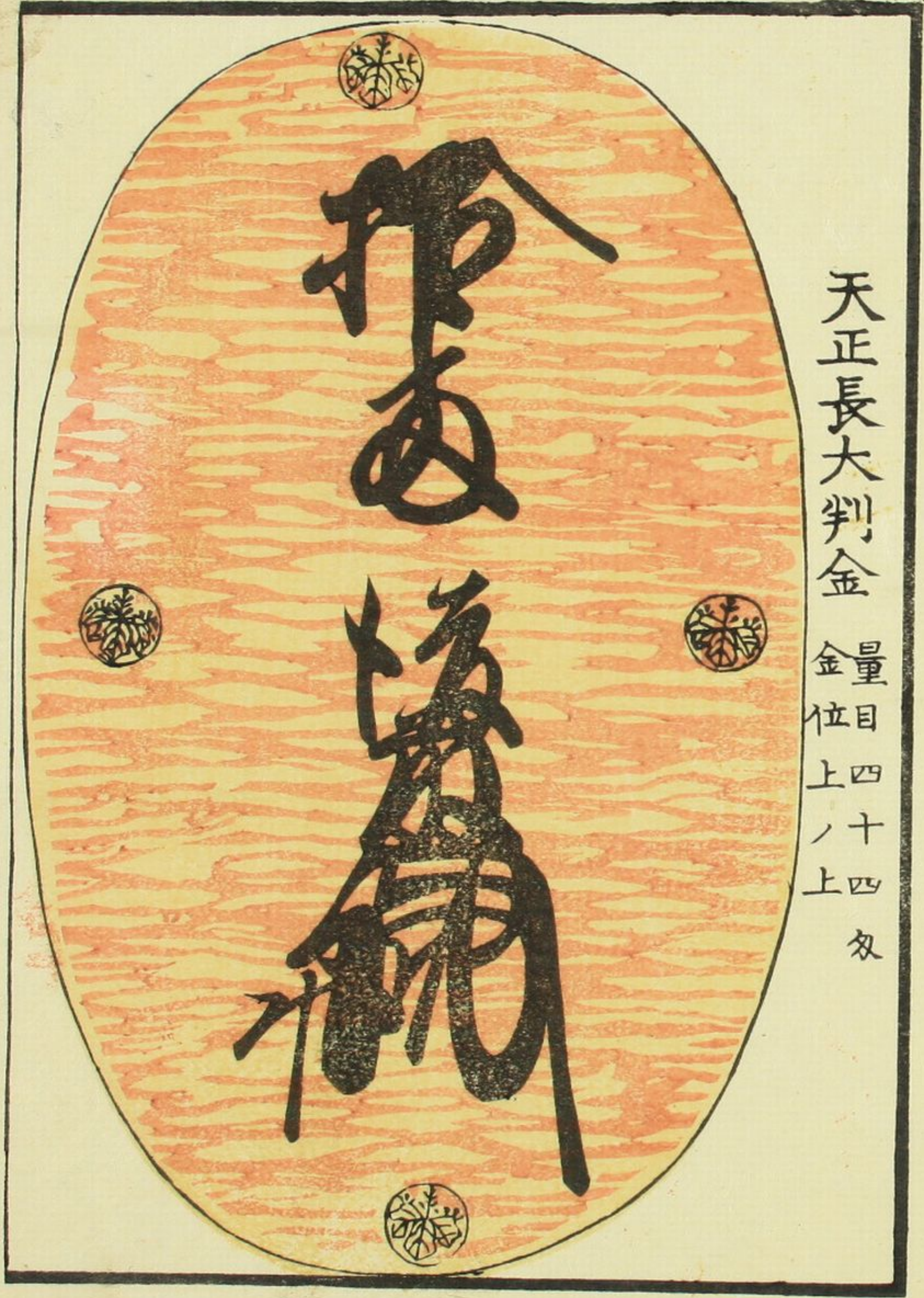
金譜

天正年間ふ始く黄金大判小判を造り文祿四年乙未
始く武蔵小判を造り慶長六年
大一統の後始く大小分判挺銀の形制を定免くを遂
萬代不易の模範世宝となす故く天慶年間ふ造る物
々一統通用ふ似はと雖も亦、 草創乃際各種の形制
と試造く後ふ始く今の大小分判り一定せしむる
る危く思ふ故く之を捨はく共り具列は

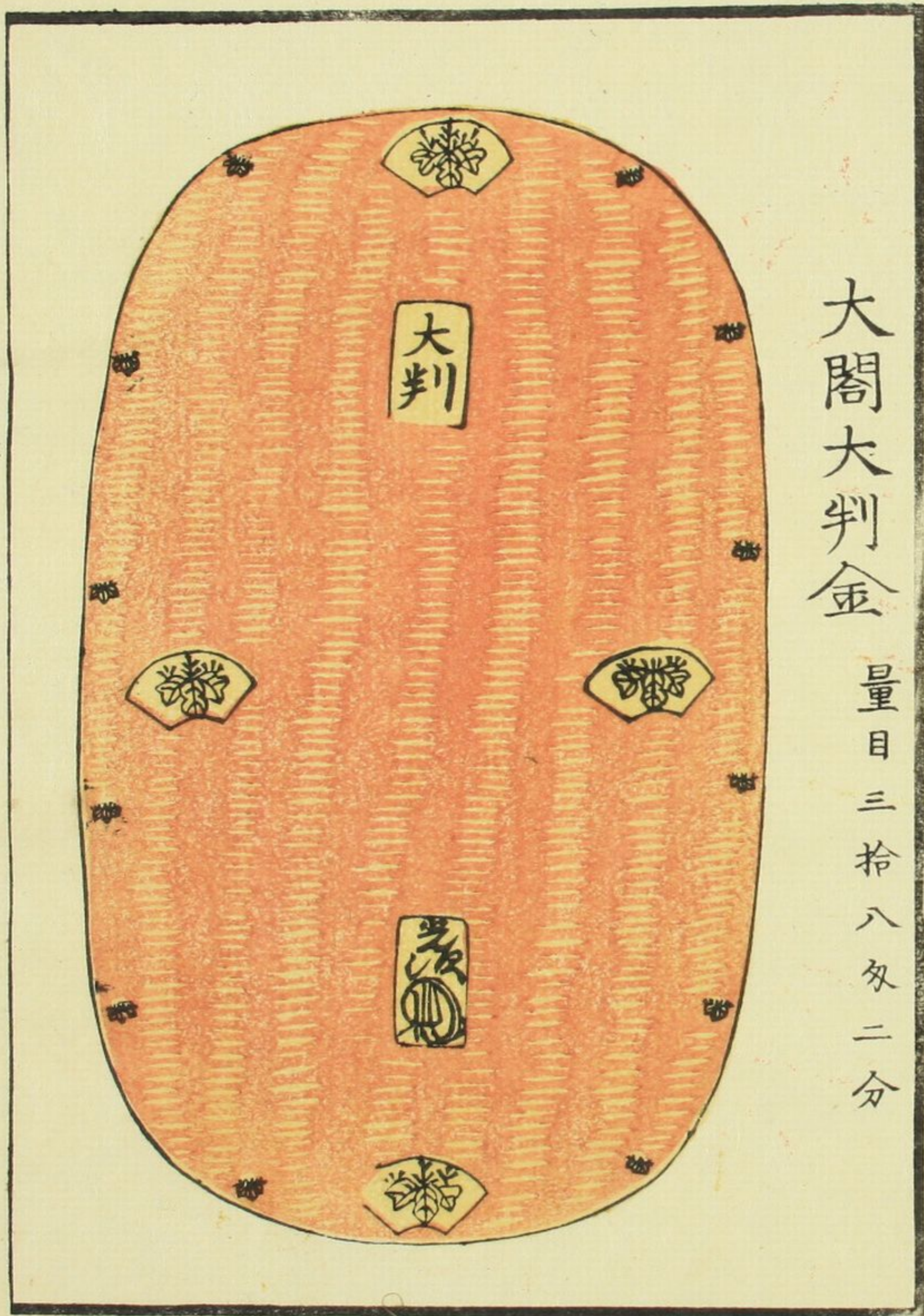


天正大判金
量目四十四匁

紳書も後藤云く大判より拾両と書更にも小判拾両より
 々なり黄金拾両より黄金拾両より昔も銀壹枚を黄
 金壹両と云り銀拾枚を黄金拾両といひ大判壹枚を
 銀四百貳拾目小通用せり其銀四百貳拾目の外乃高
 下々時々両替屋乃相場と見らるり
 銀壹枚を金壹両と云ること及判金壹枚を白銀四百貳
 拾目より替る事も天正の古文書より見ゆ
 大判も信長公の時後藤の先祖極る物ありと後藤
 云えり由も紳書より見えり是を大判ハ信長公の時始
 まりたるものなるなり

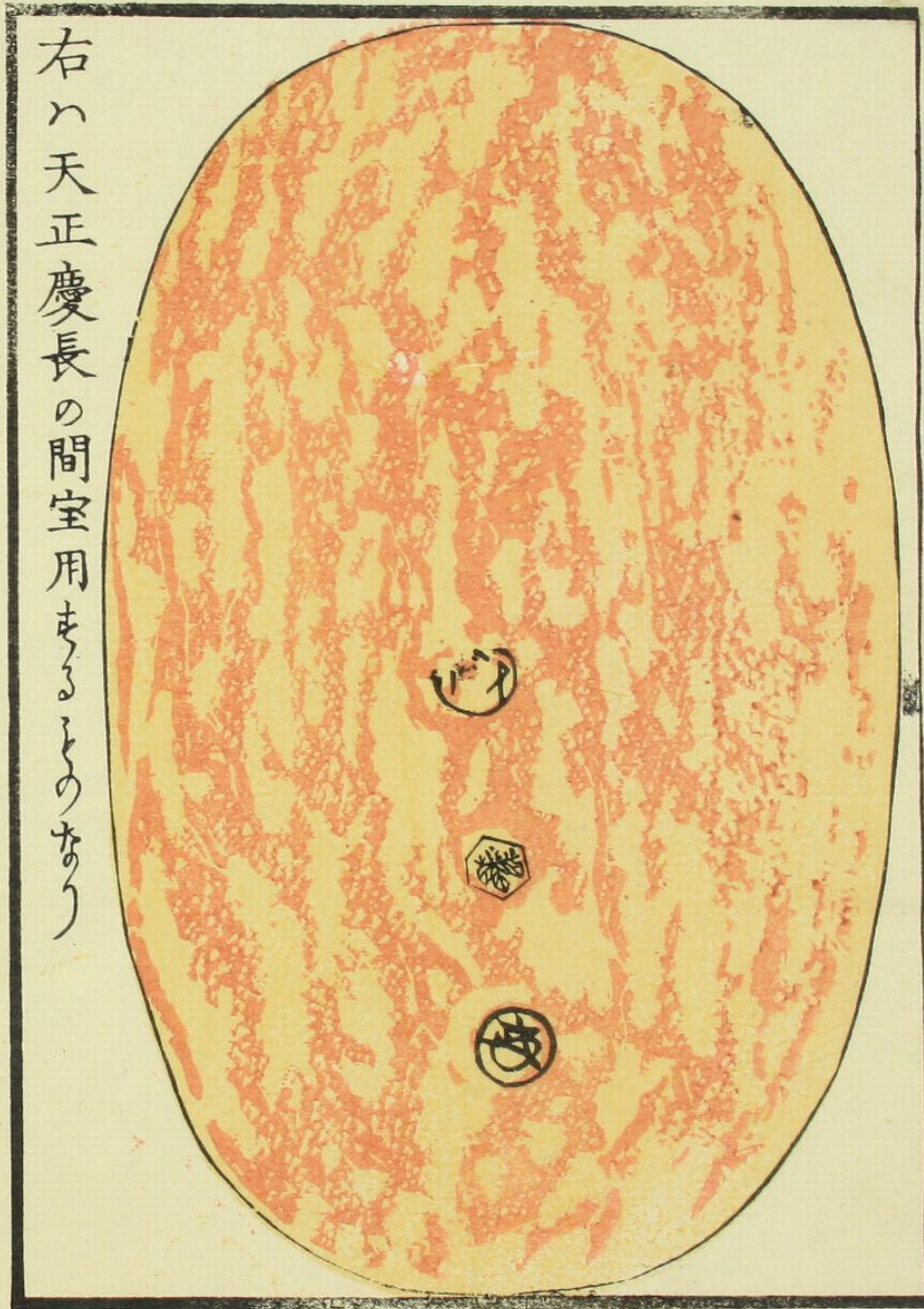


天正長判金
 量目四十四匁
 金位上ノ上

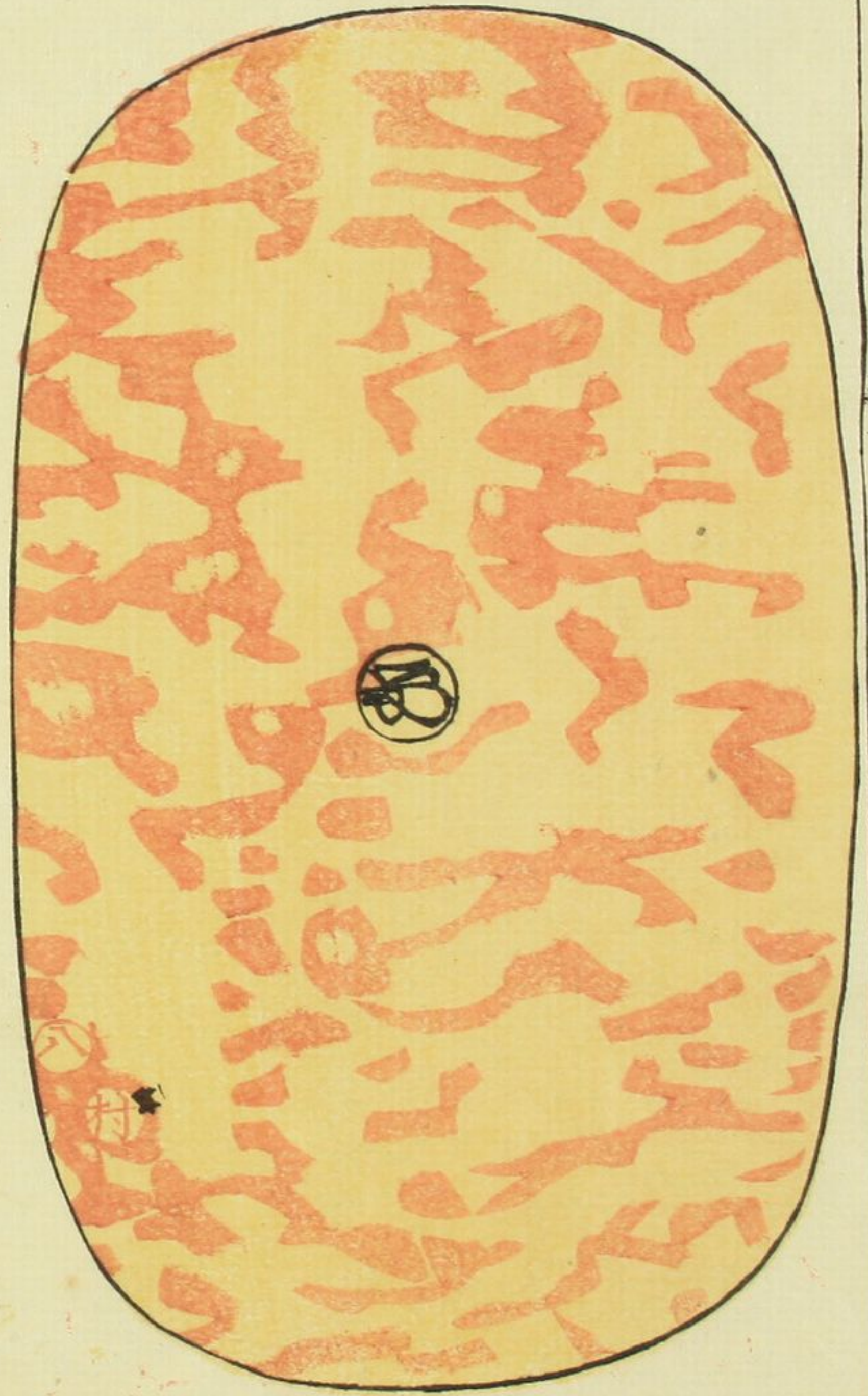


大閣大判金

量目三拾八匁二分



相傳ふ是も天正文祿の間了造る所より面背の花押
皆小判光次の極印と同しけきと姑く旧名も随ふまじ



大判より橋本と云ふ極印あるものあり是も太閤乃
銀座より由静庵随筆ふ見くくくくの一覽せざれ
と圖載せし

太閤圓歩判金 量目壹匁貳分 金位上



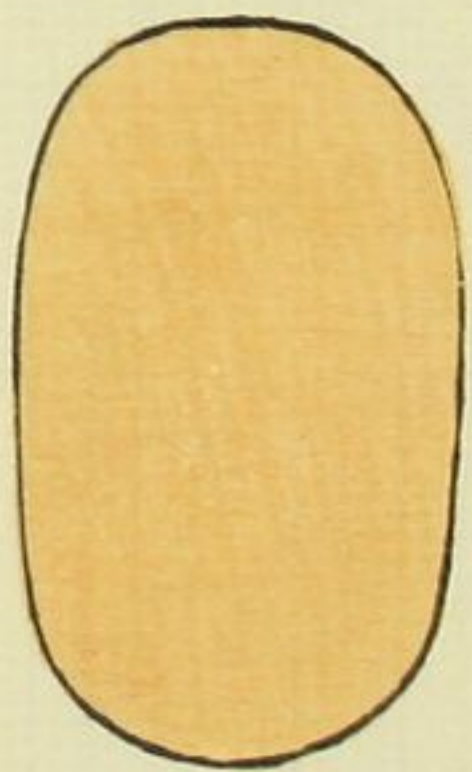
同上壹分金 三品共り量目壹匁貳分 金位上一名大坂壹分云



寶貨叢略より慶長四年始り壹分判と造らるる、ゆゑに
 之の此等乃類なるもの或ひと下り載るものあり、後
 乃考と候

太閤壹分小判金

量目壹匁二分
 金位上



静庵随筆に花小判とあり、金子壹兩を四ツに分ち、
 是等の類なり

同上貳分小判金

量目貳匁四分五厘
 金位上面掬目



同上長小判金

量目貳匁四分五厘
 金位上



太閤壹両小判金

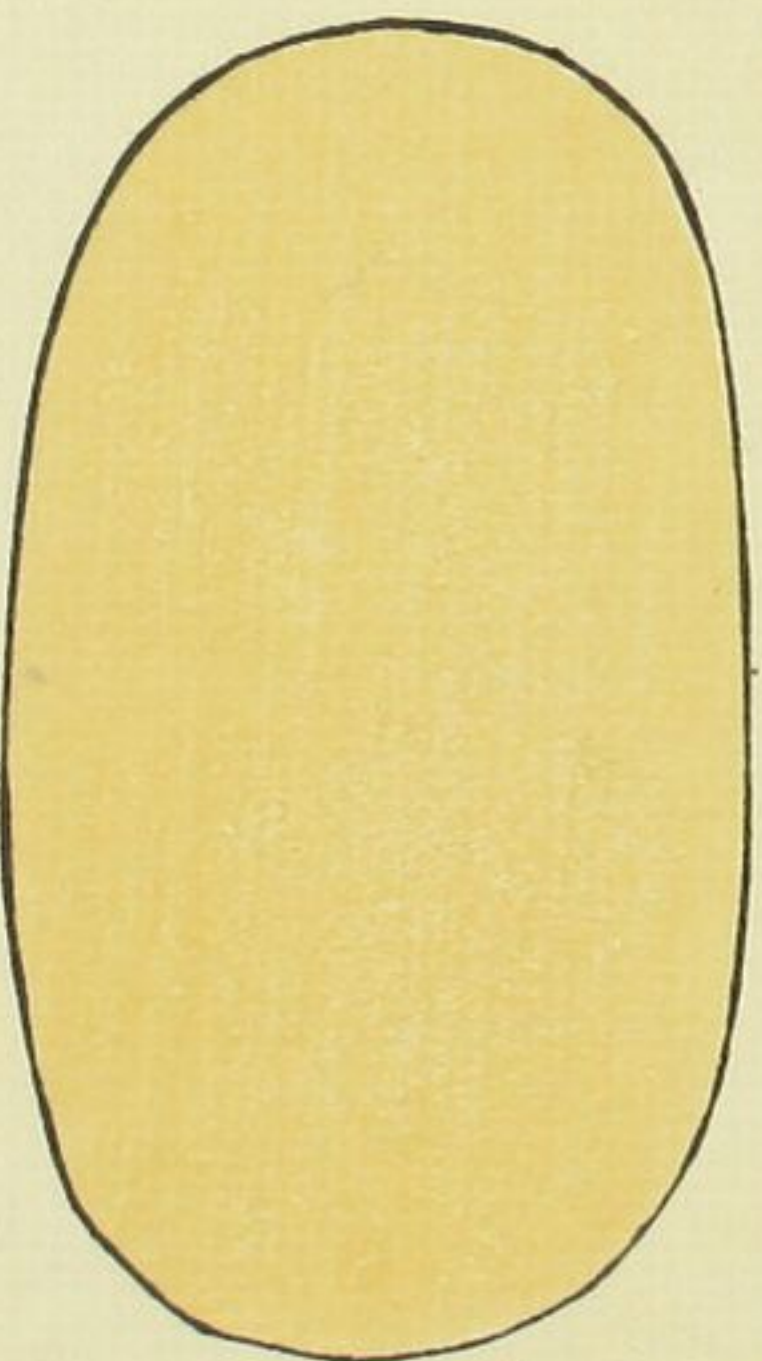
量目四匁八分
金位上



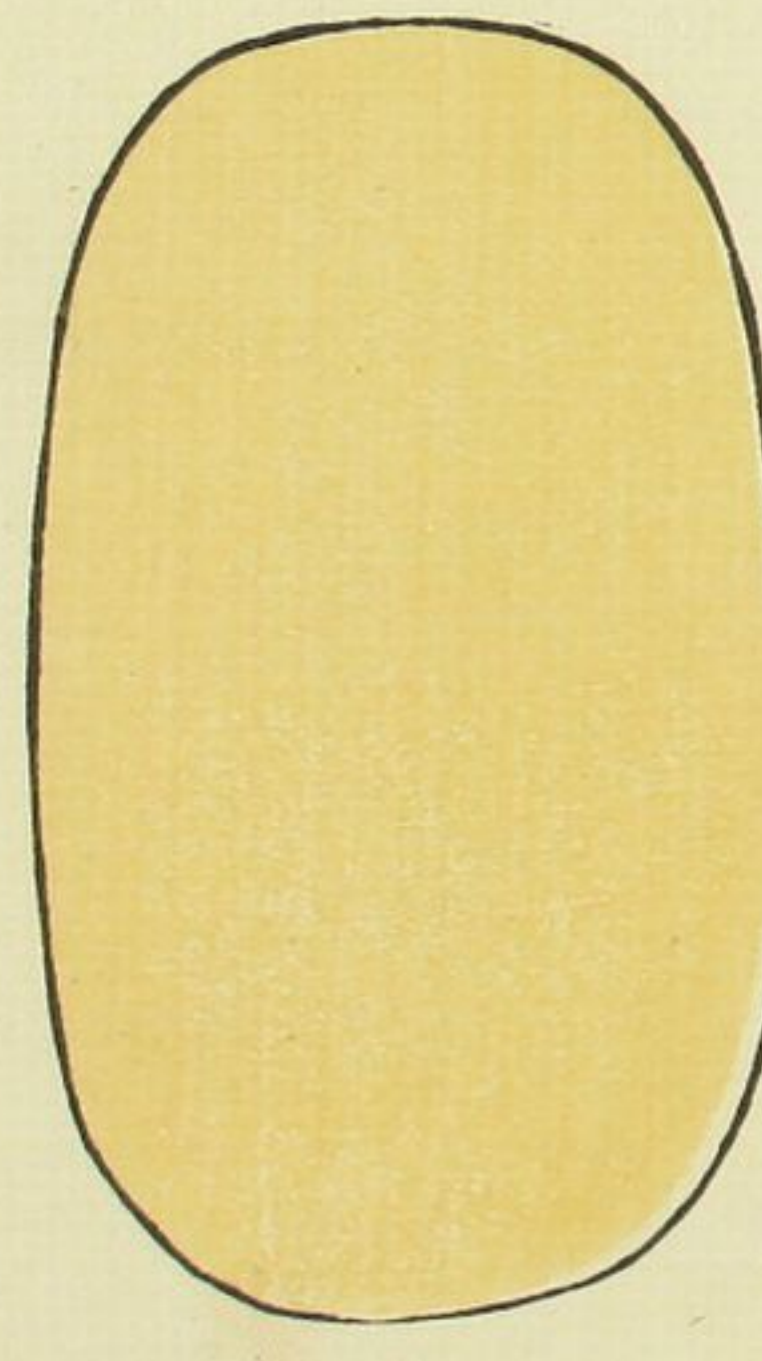
此金元名_ナヲ_ク慶長異象小判と_シ天正十六年小判
造_ルと_シク_テの蓋_シ是_レヲ_ク然_レト_モ文祿四年武蔵判
_リ光次と墨書せ_リと慶長五年_リ至_ク初_ク極印_リ改_ト
あ_キと_シ是_レと慶長五年以後_ノと_シの_リ

太閤但馬小判金

量目三匁七分五厘
金位中ノ上



同上小判金



是_レと但馬小判と模造_ス所_ニあ_リん

太閤花降金

量目三分



此金薄片觀るふ足るものなき姑く舊説と存の

同上軍用金

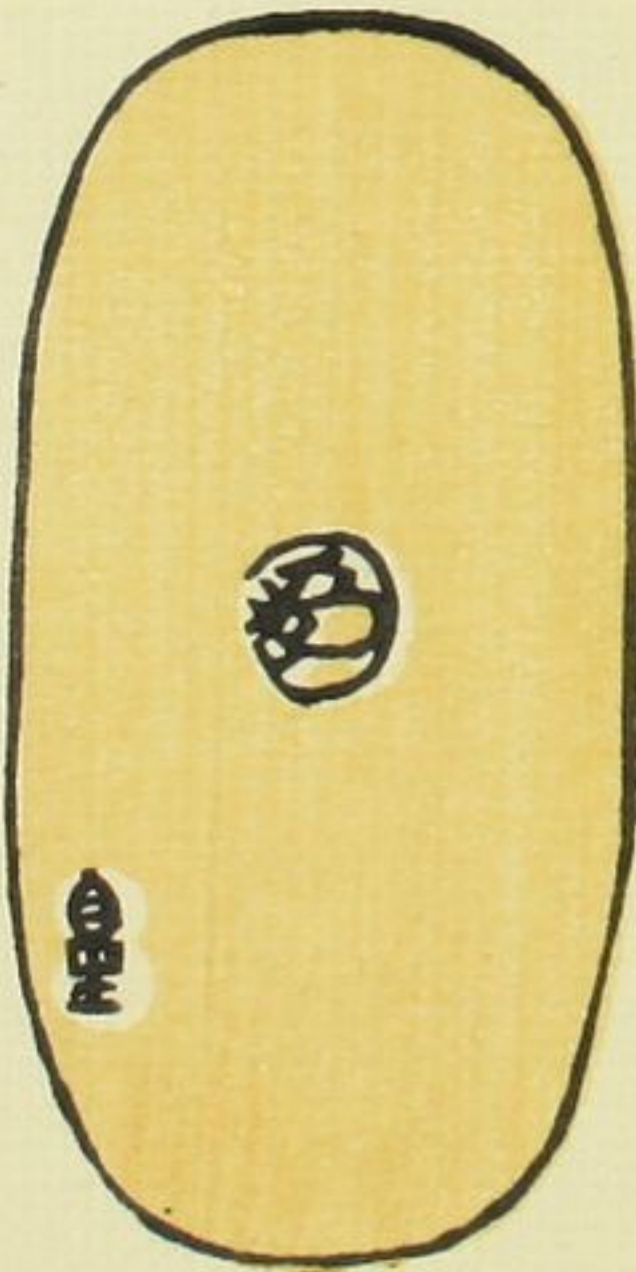
量目六分



此金朝鮮の役し量目壹匁より十匁迄造るとり未だ然るや否と知らば

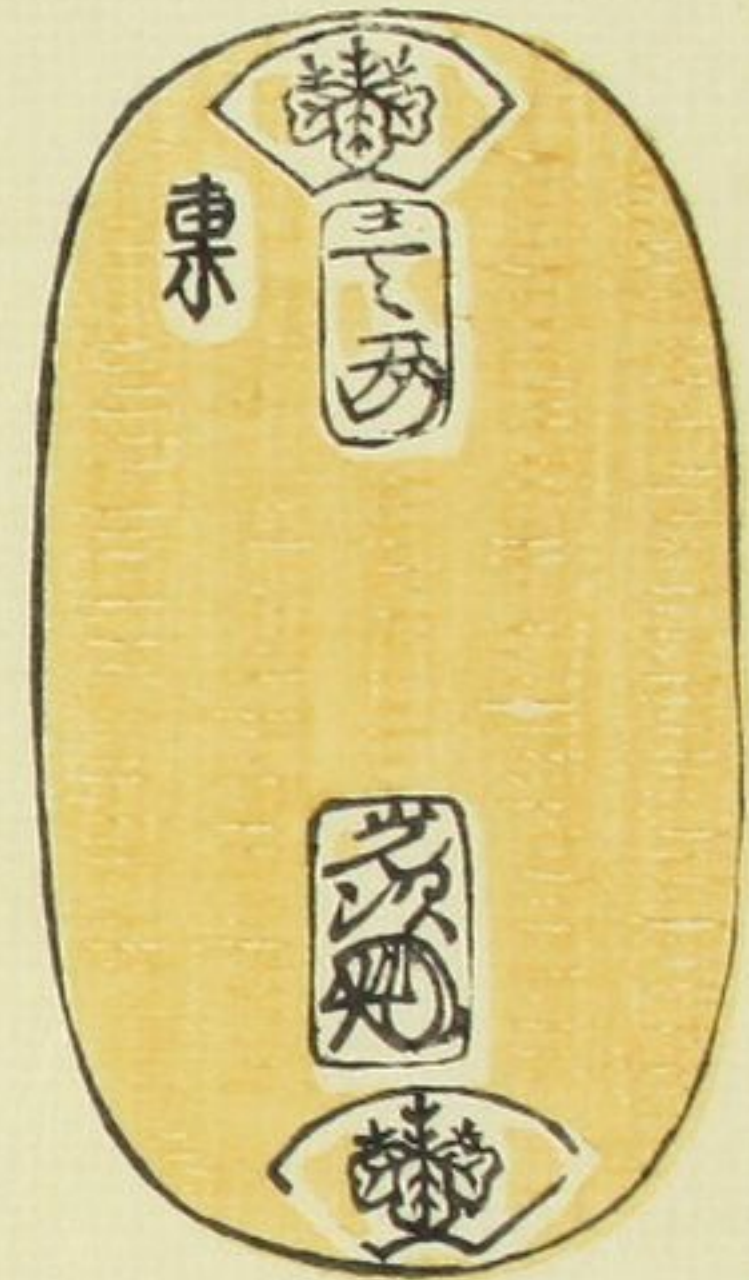
天正小判金

量目四匁二分五厘
金位上

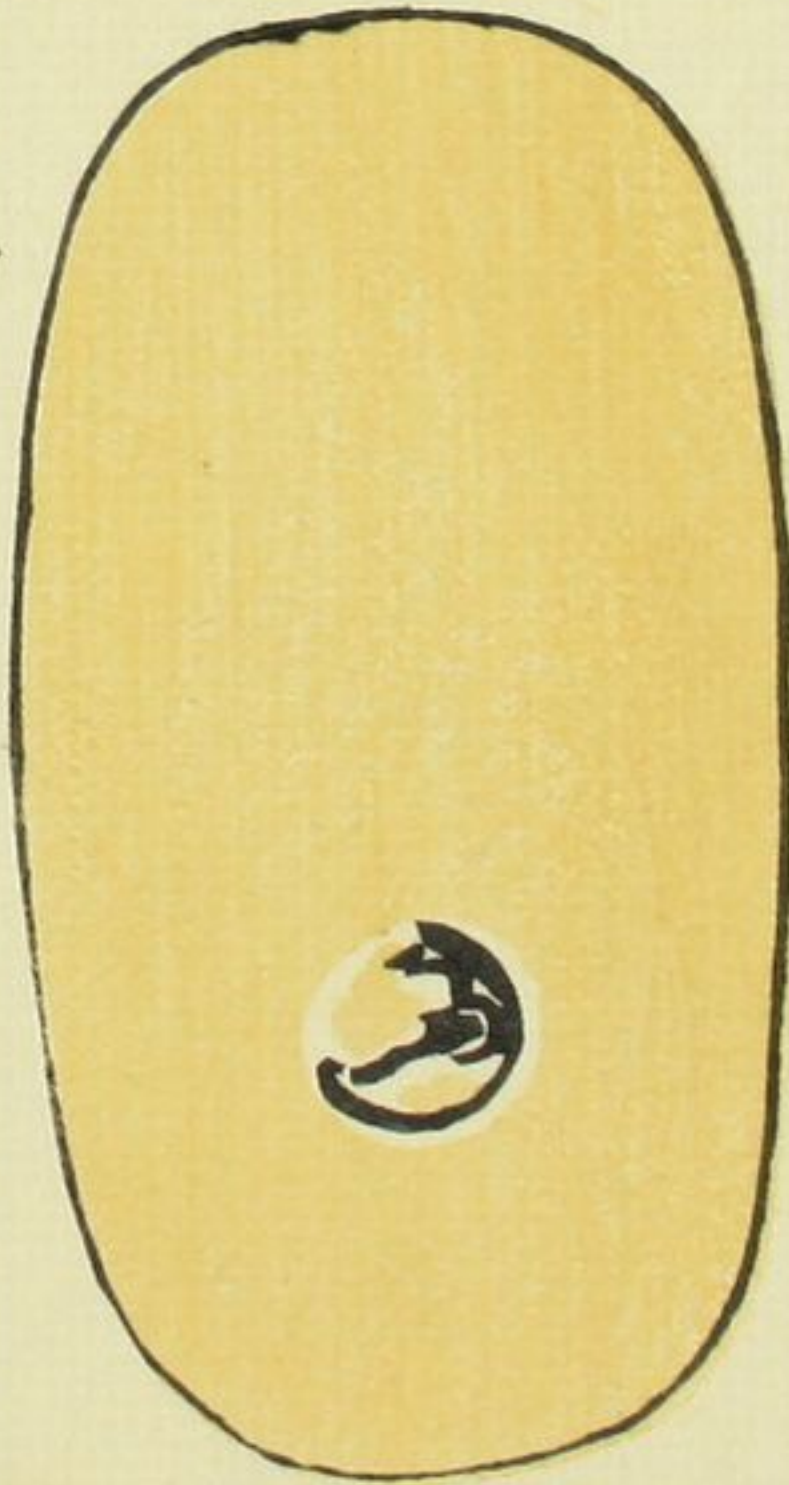


是も正徳新金を摺り直し縁し小丸を打ち天正の字と打添あるものなるを審し此金を視ると天正の極印壹両光次乃極印と異なり且天正の文字コサ目の上小在て製造の頃一時ふ打つるもの何れも金色と上るると雖も古色は非ば量目四匁壹分五厘とすも其謂なり

武蔵東小判 量目四匁八分
金位上

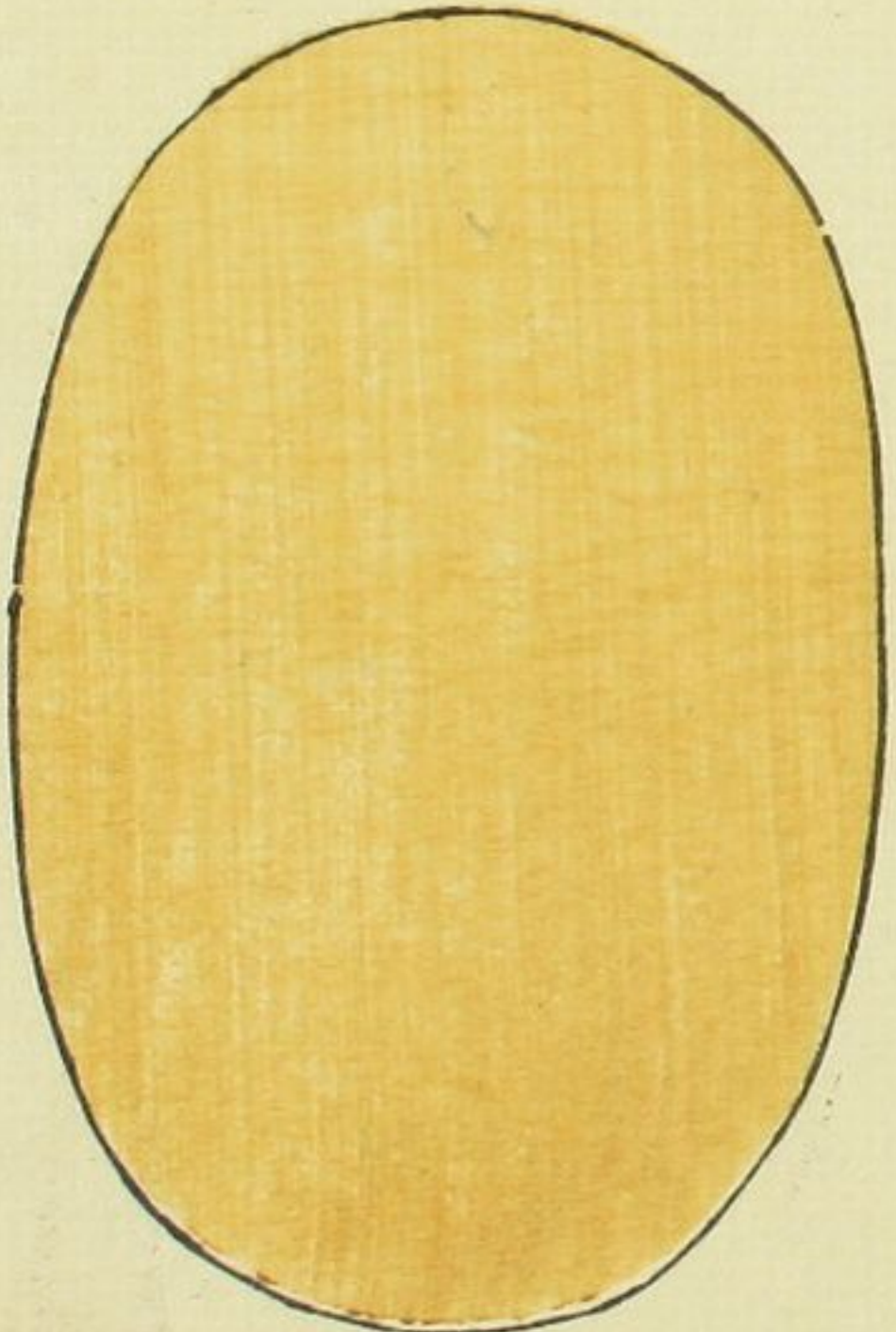


同小判金 量目四匁八分弱
百榎目



右ハ文禄中江戸駿河両所あり始て作り慶長五年
至て墨書を極印不改らしむりあり

駿河小判金 量目四匁二分五厘

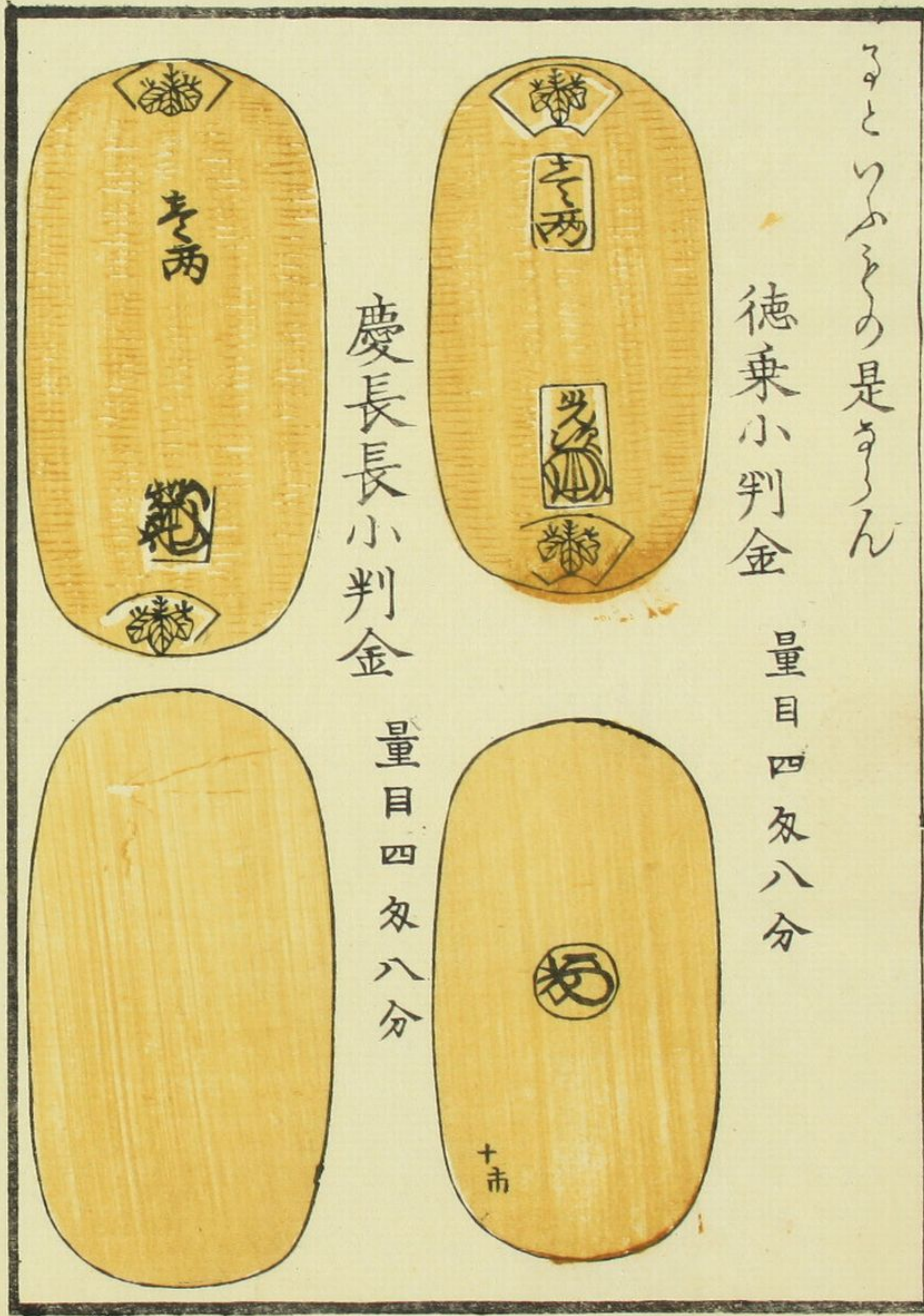


此金もと名けし京目壹兩とあり今更し駿河小判と改
右邊の二字と駿河なり是文禄四年江戸駿河あり造



慶長大判金

量目四十四匁二分
金位上ノ上



るとりふその是きん

徳乗小判金

量目四匁八分

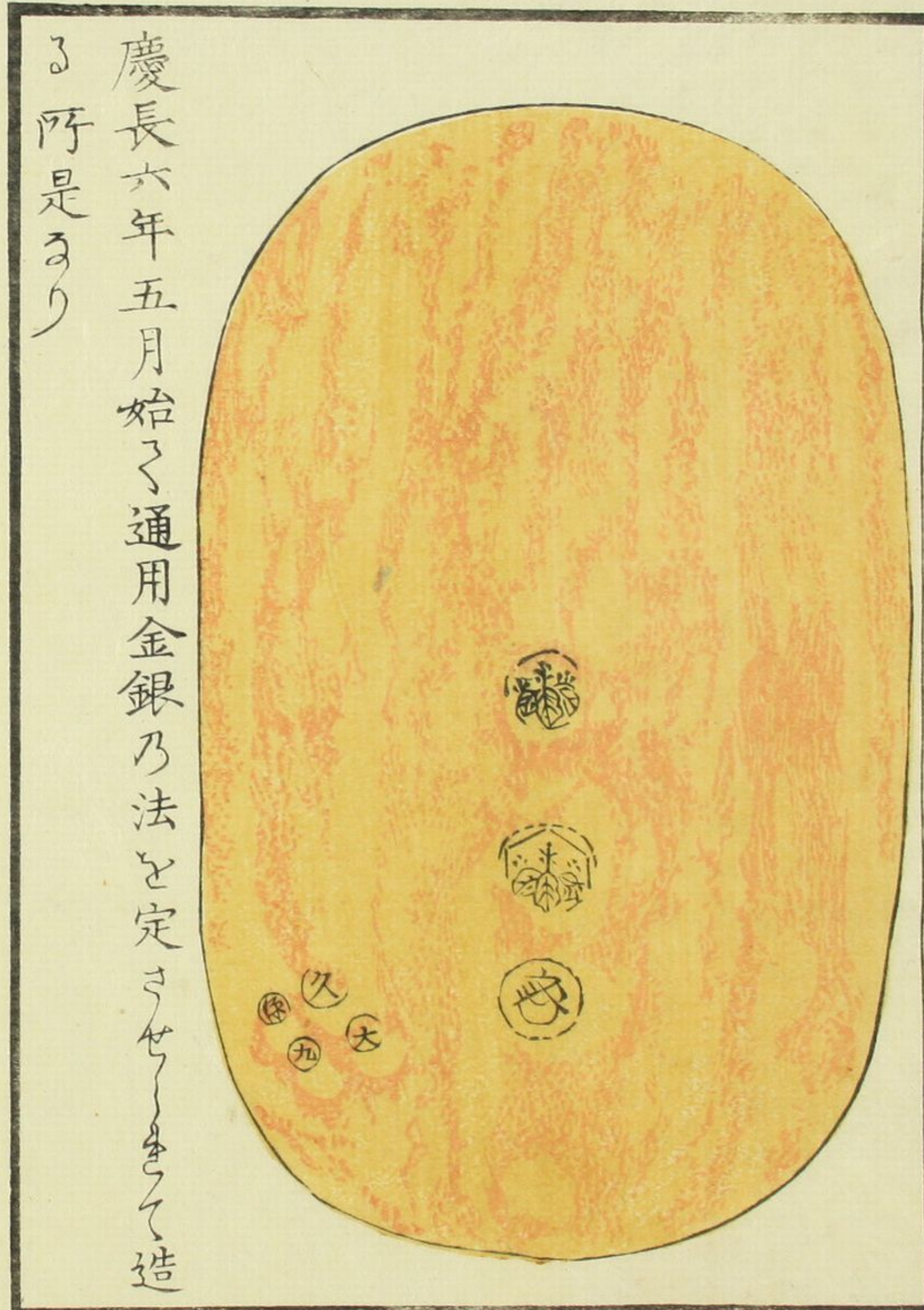
慶長長小判金

量目四匁八分

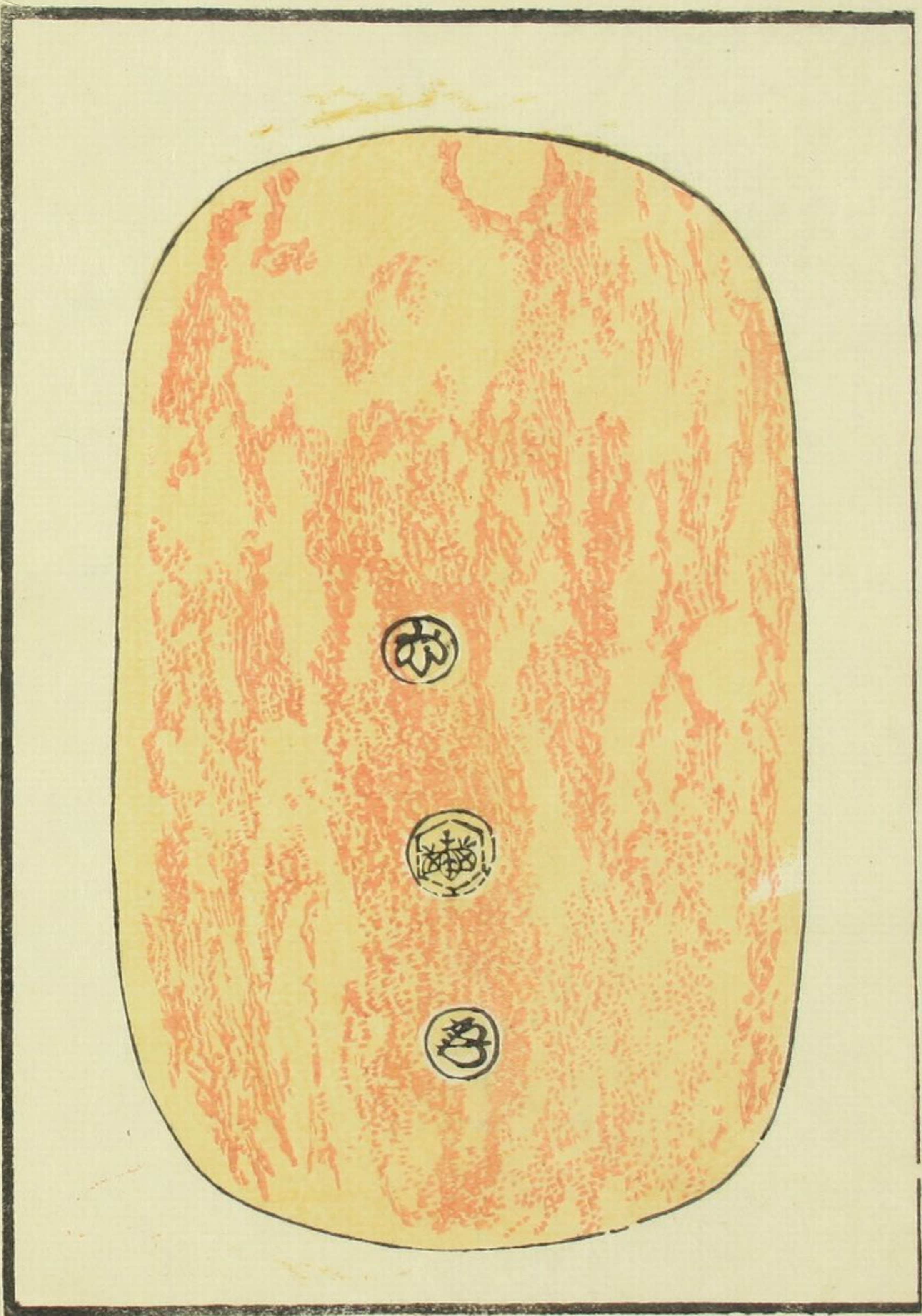


慶長笹判金

量目四十四匁二分



慶長六年五月始々通用金銀乃法を定させり
 造る所是なり



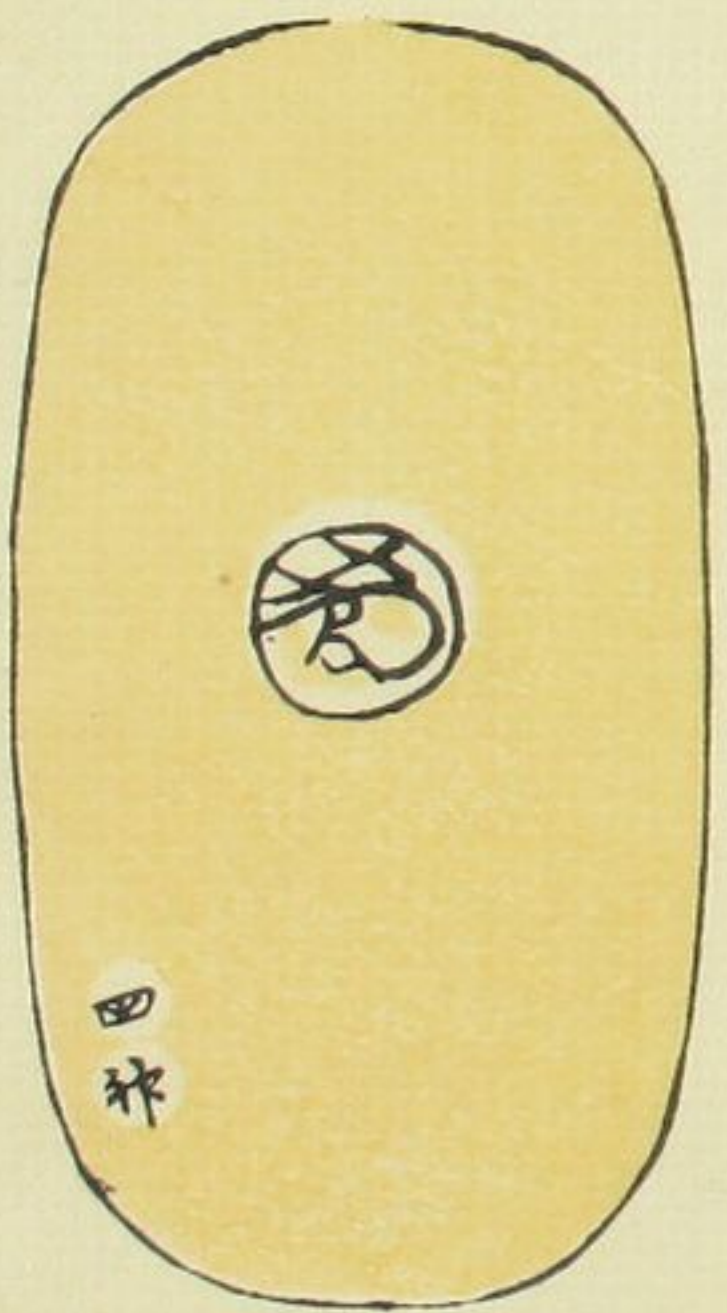
慶長江戸座小判金

量目四匁八分



同上京座小判金

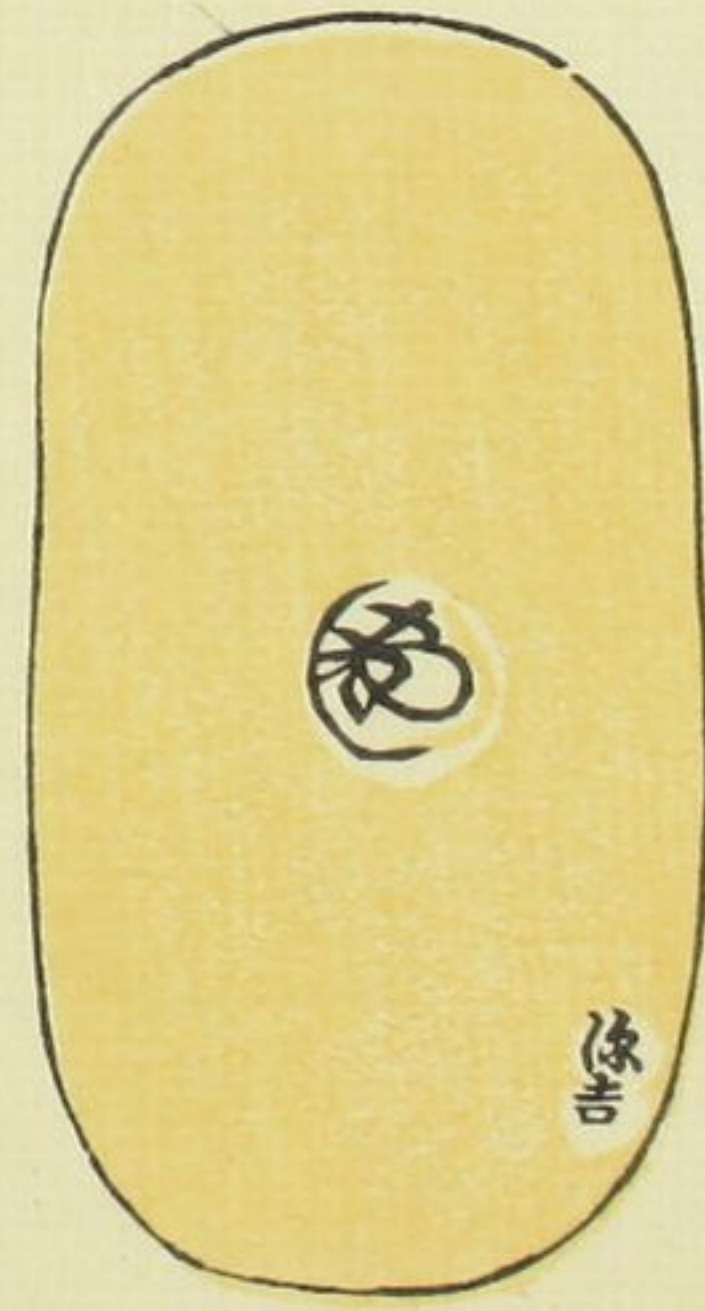
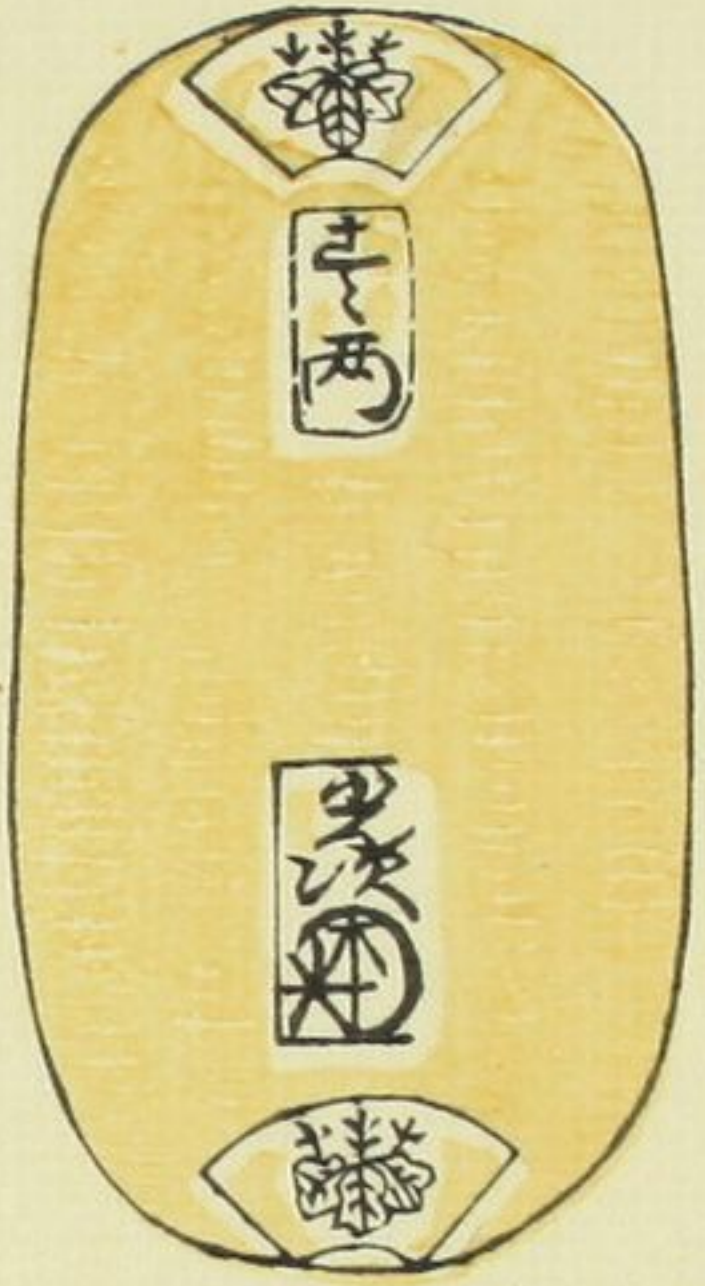
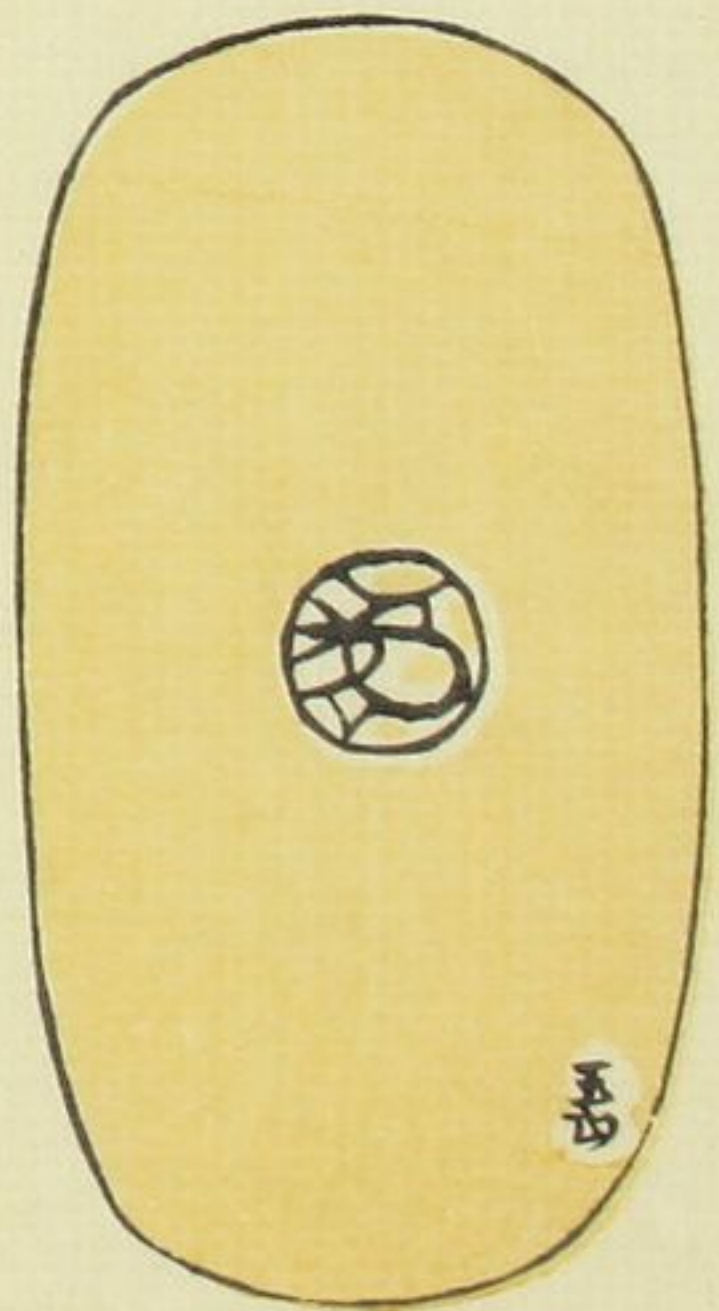
量目四匁八分



慶長駿河座小判金 量目四匁八分



同上



是ハ吳ゴ目乃察なるを以テ異ニスルノミ

同上西頭小判金

量目四匁八分



同上壹分判金

量目壹匁二分

同上駿河座壹分判金

量目壹匁二分



慶長片本字壹分判金

量目壹匁二分



同上西本字壹分判金

量目壹匁二分



是と世は短冊壹歩ともいひ倍り小粒ともいふ上方ありと豆板銀を小粒といひ是を分判といふ又外廓は小星の廻りありと倍子持壹分といふ又別は一種重廓のありあり是を倍り額壹歩といふ

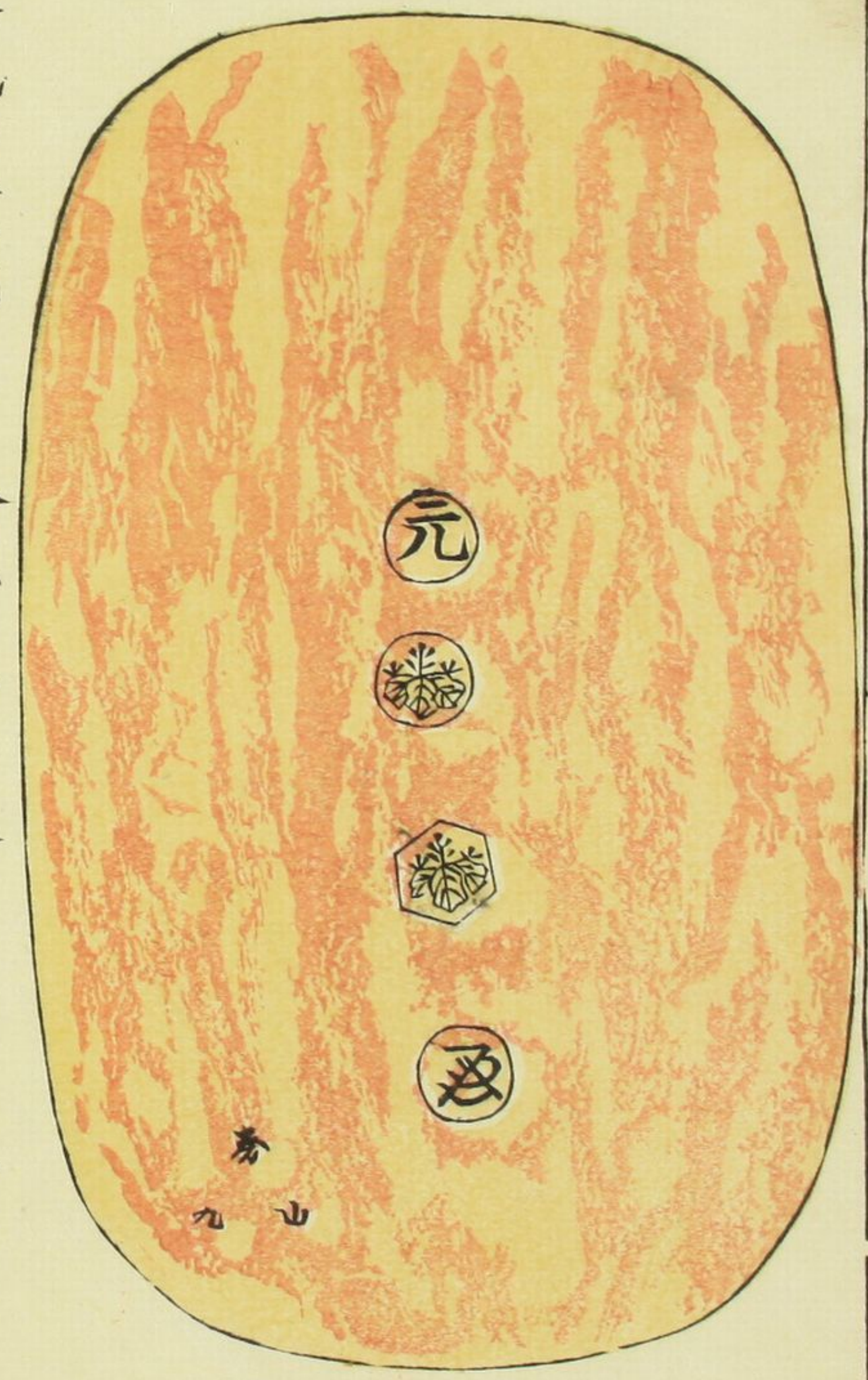
元禄大判金

元禄大判金

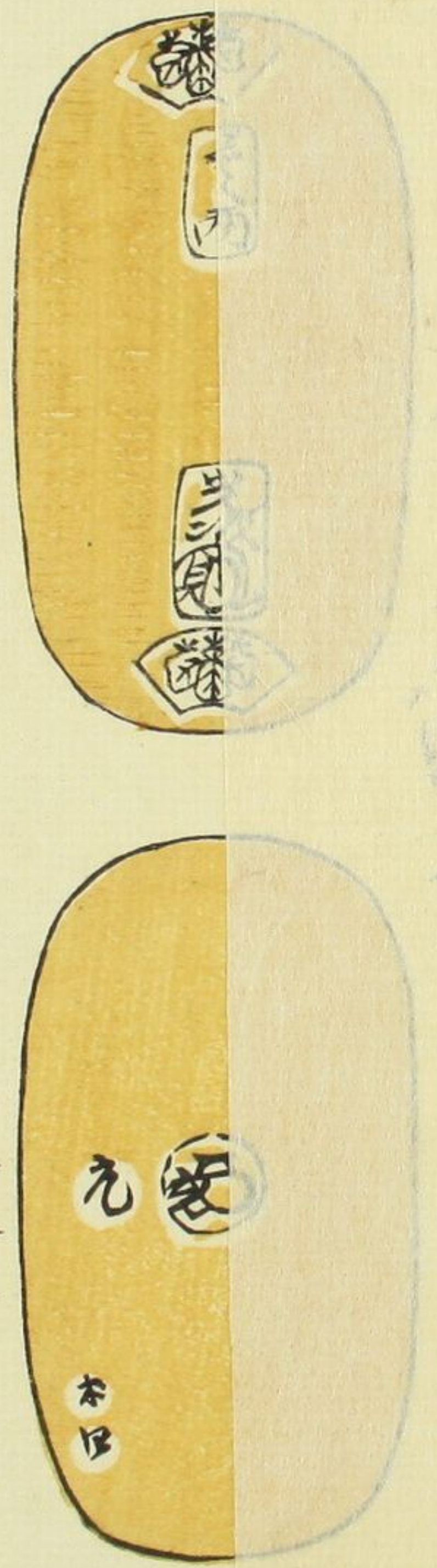
量目四十四匁二分



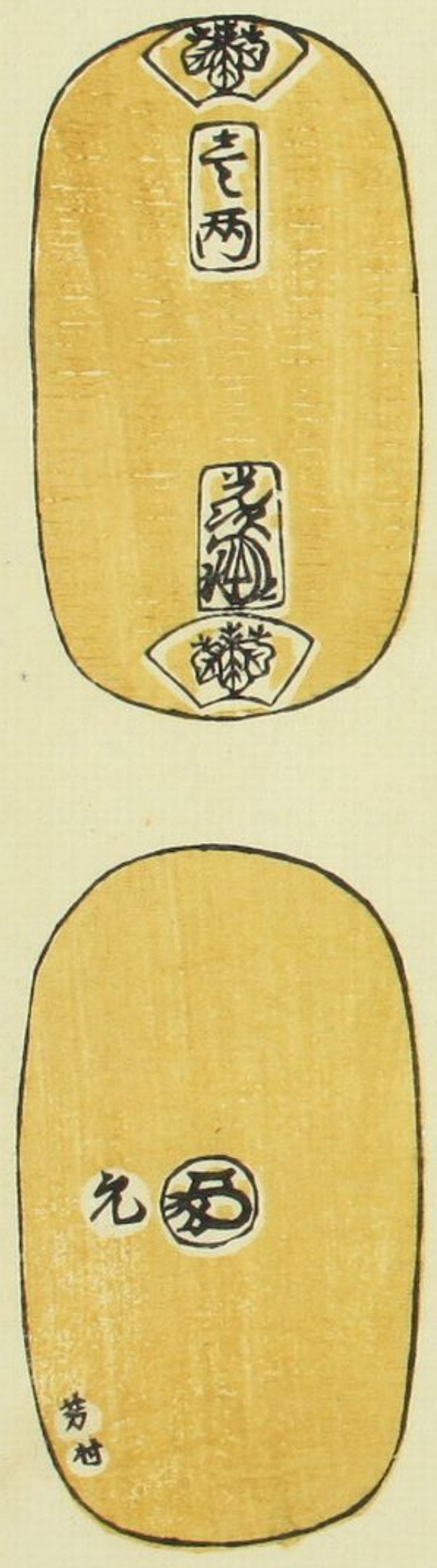
是ハ元禄八年九月十日金銀の法と改めしきと造る所なり
 後享保十年十二月朔日より至る通用と止む



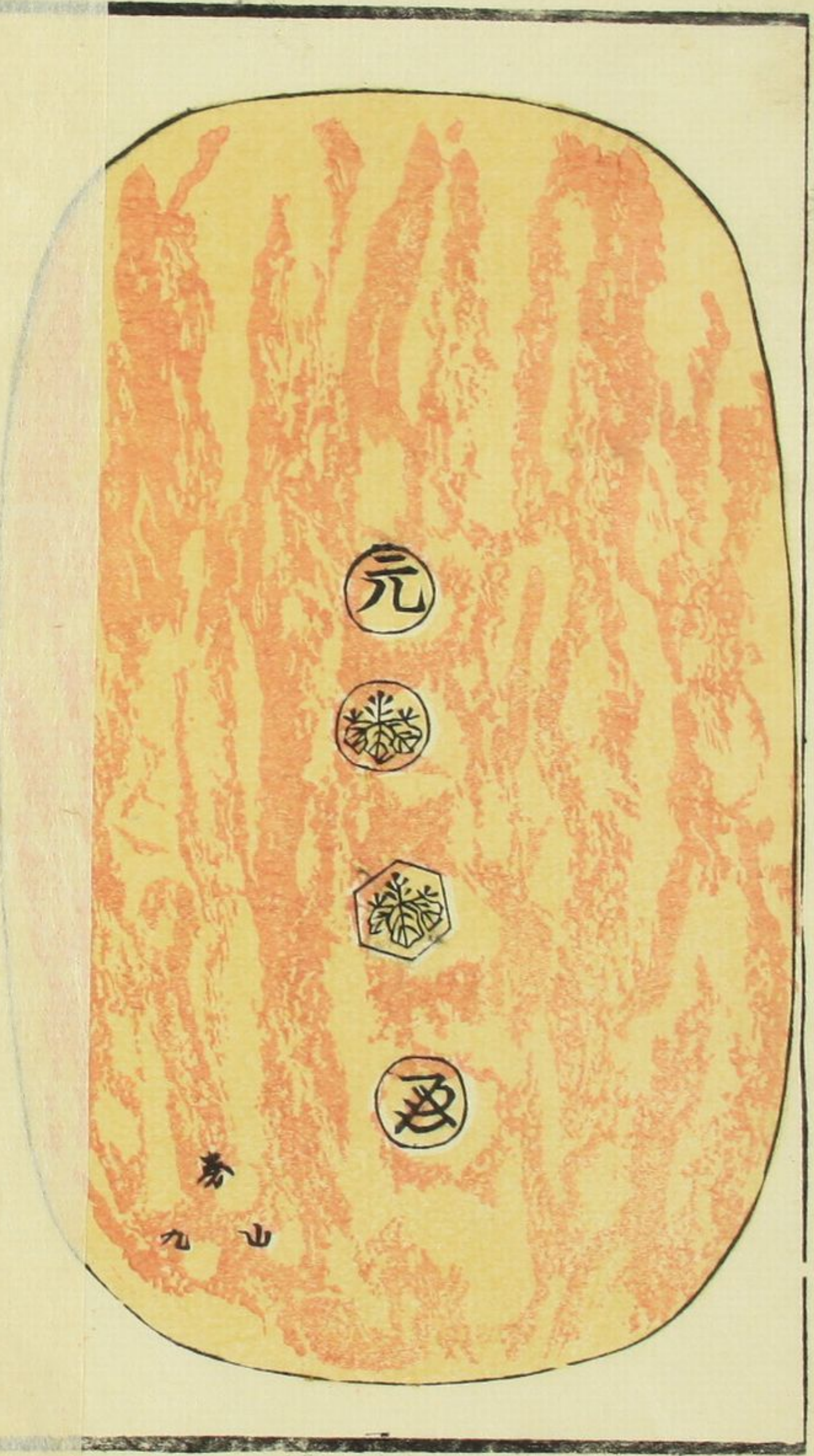
元禄江戸座小判金 量目四匁八分



同上京座小判金 量目四匁八分

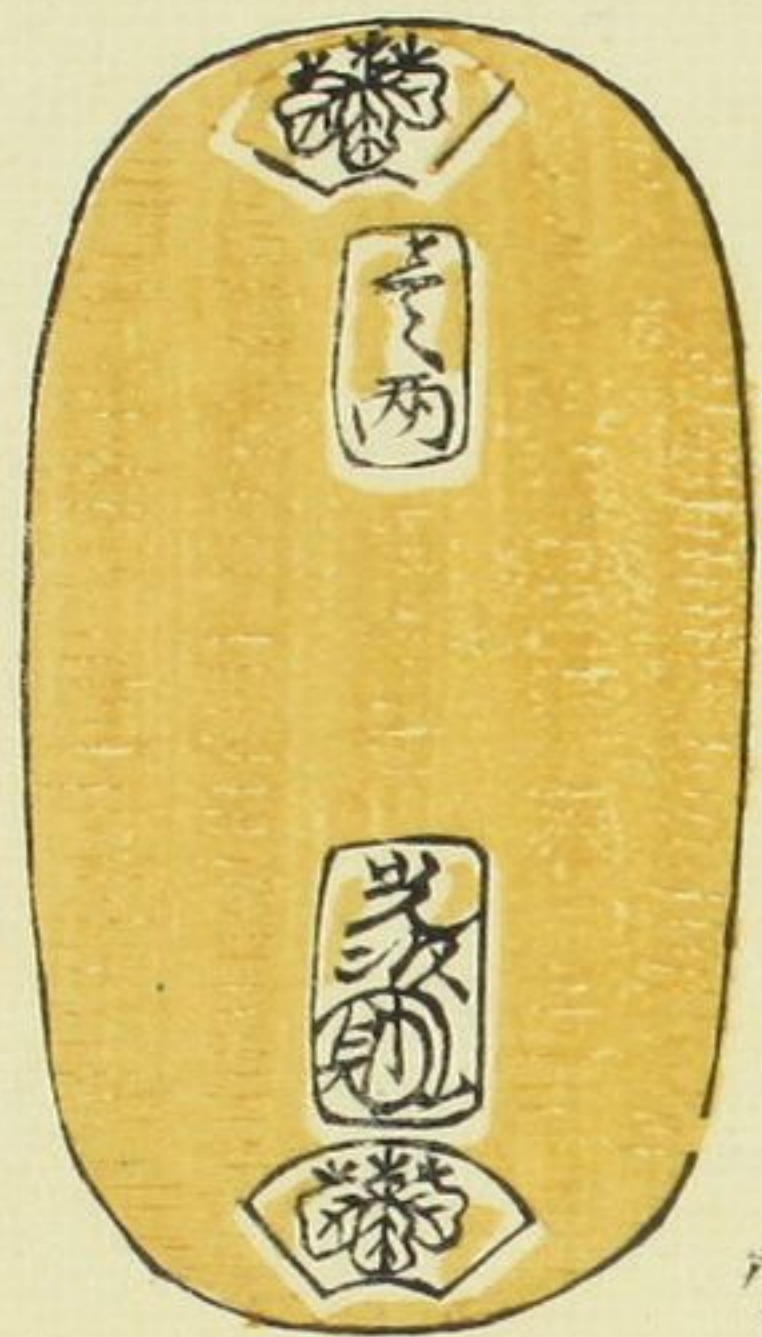


是元禄八年九月十日金銀の法と改や、色く造る所なり
 後享保十年十二月朔日、五く通用と止む



元禄江戸座小判金

量目四匁八分



同上京座小判金

量目四匁八分



芳世

元禄壹分判金

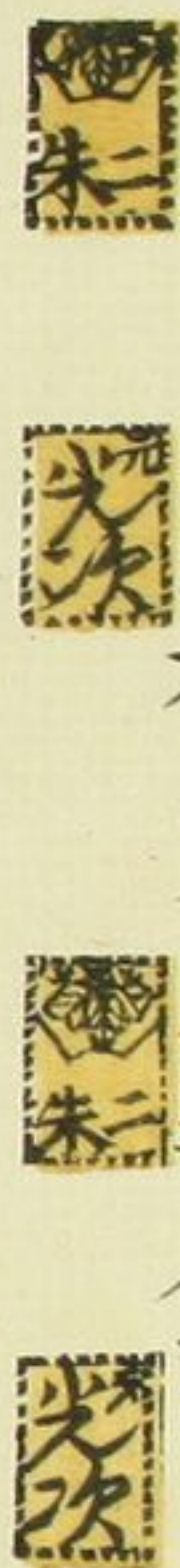
量目壹匁二分



右小判分判とも元禄八年より造り享保三年より通用を止

元禄貳朱判金

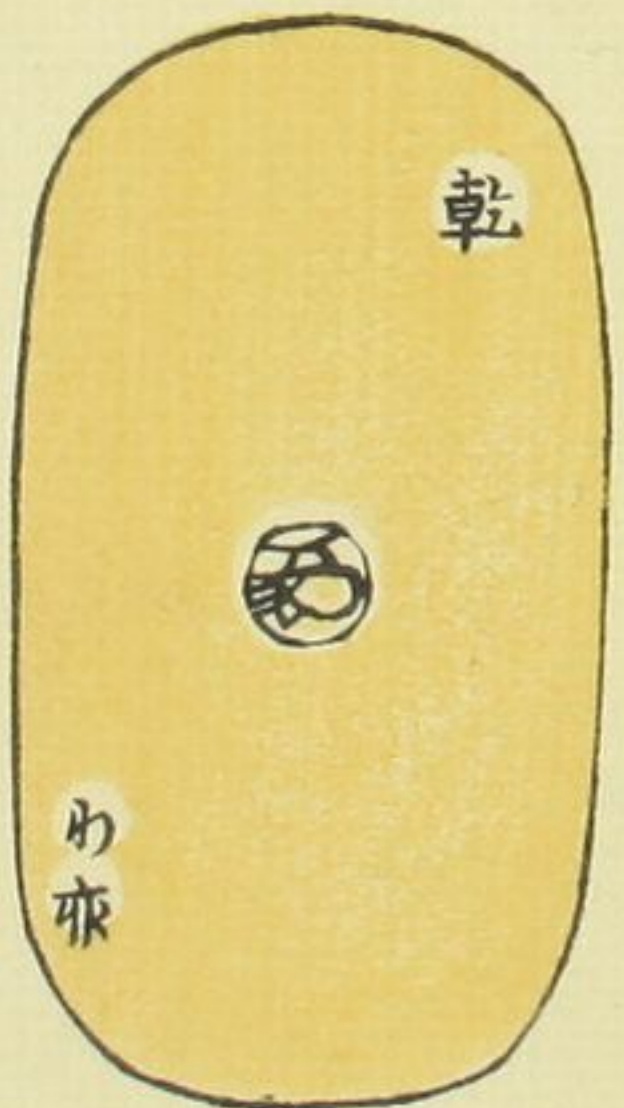
量目六分



元禄十年六月晦日新金ありて鑄るとありて後臣永七年四月より至て通用を止

寶永小判金

量目貳匁五分



寶永七年四月十五日元の字金が吹替へ古金の位より改めりて
を小判壹分判とも小形もも乾の字の極印を打つ是を
世より乾字金といふ享保五年より至り通用を止

同上壹分金

量目六分二厘五毛





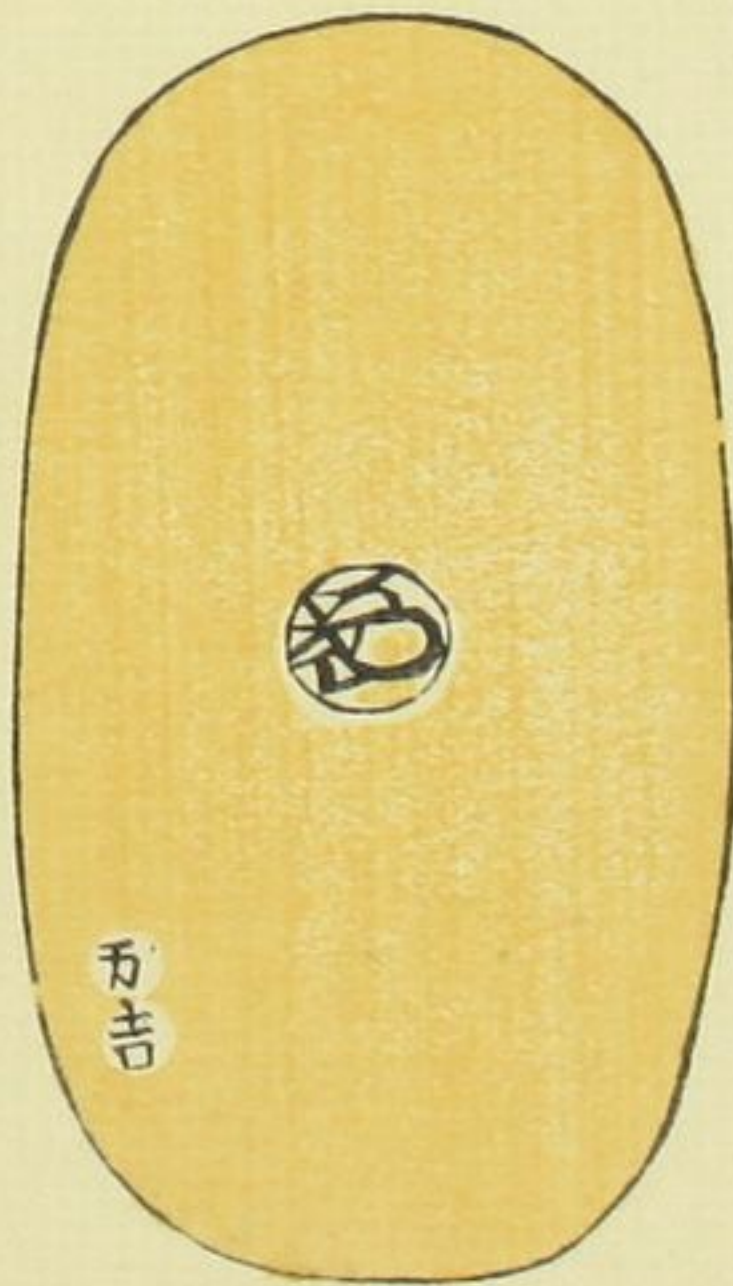
寶永壹分金異品

量目六分貳厘五毛



是ハ乾字金より元の字乃添極印と云のり

正徳小判金 量目四匁八分



正徳四年五月十五日金銀の品慶長乃法のどくまへ返さるべ
ことの吏あく慶長金位に改めしき添極印等なく是を
世り正徳新金といひ今是を古金といふ

同上佐字小判金

量目四匁八分



此佐の字ハ佐渡あく吹く所ありといふ



享保大判金

量目四十四匁



同上壹分判金

量目壹匁二分

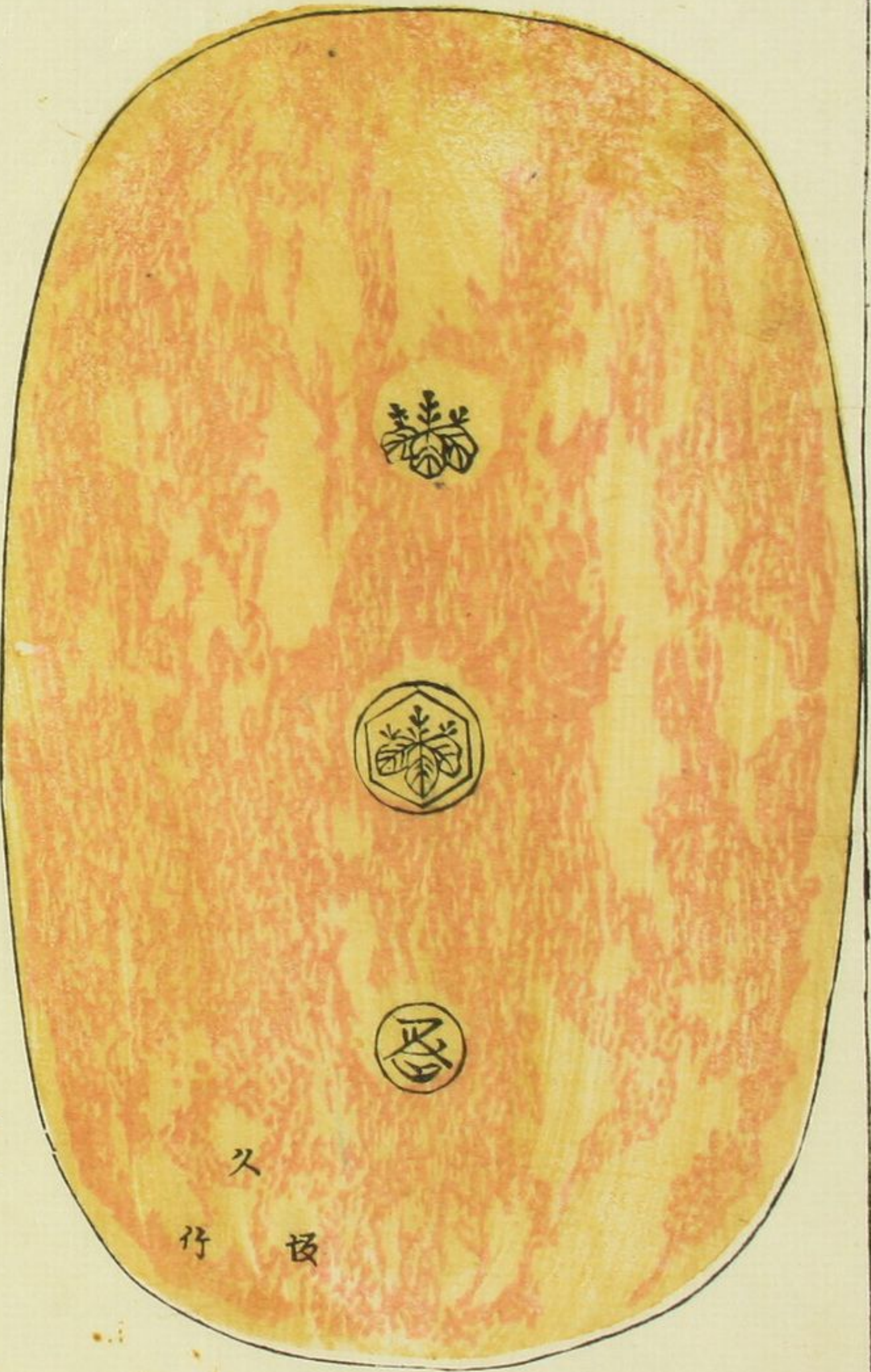


正徳佐字小判金

量目前同



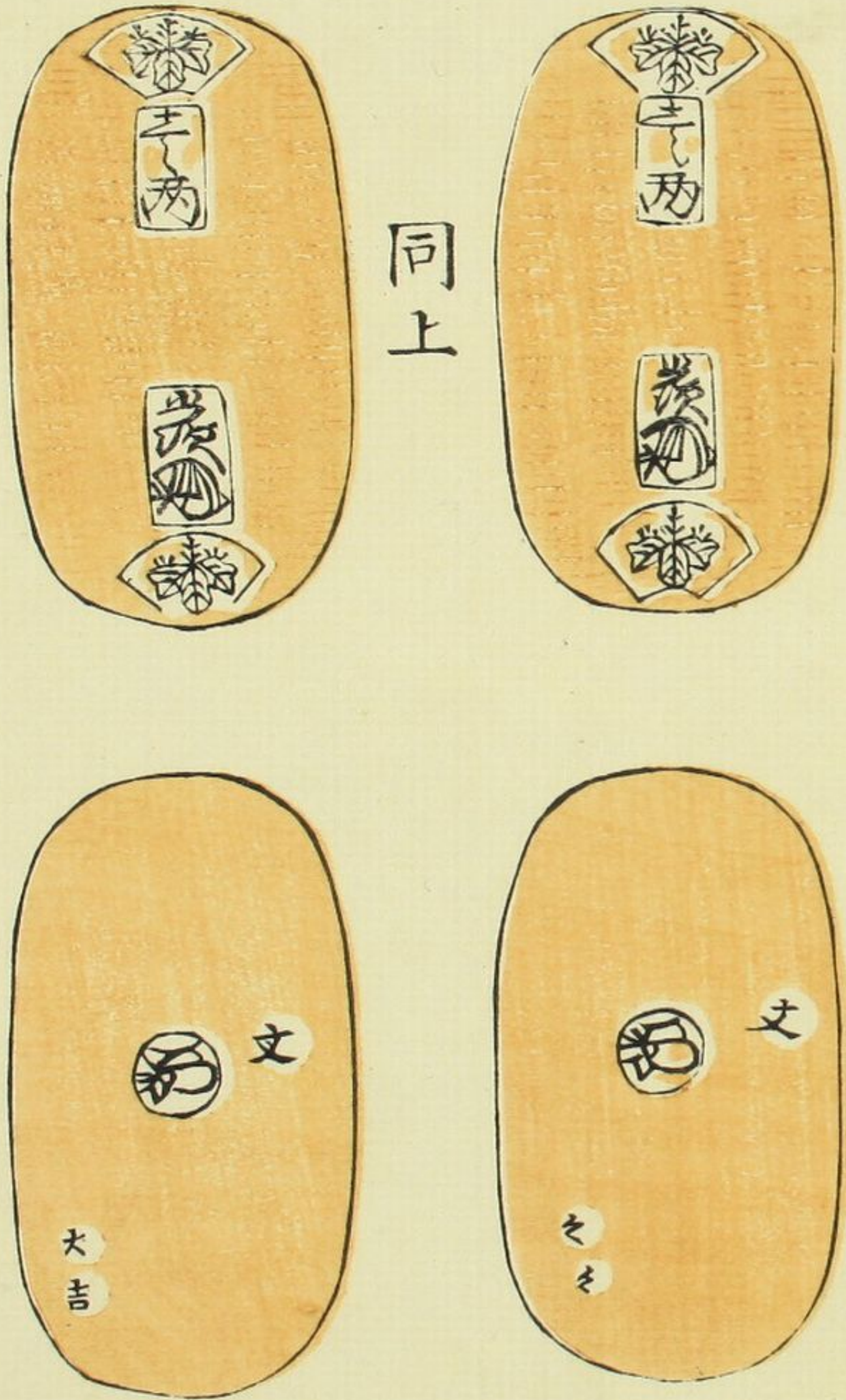
享保十年元禄大判を止る慶長大判の位より改改らるる是を
 世より新金大判といふ今用らるるの是なり



元文小判金

量目三匁五分

同上



元文元年五月十二日金銀を改められた文の字の極印をうけるもの

より是を世に文字金とす

元文一分判金

量目八分七厘五毛



文政二分判金

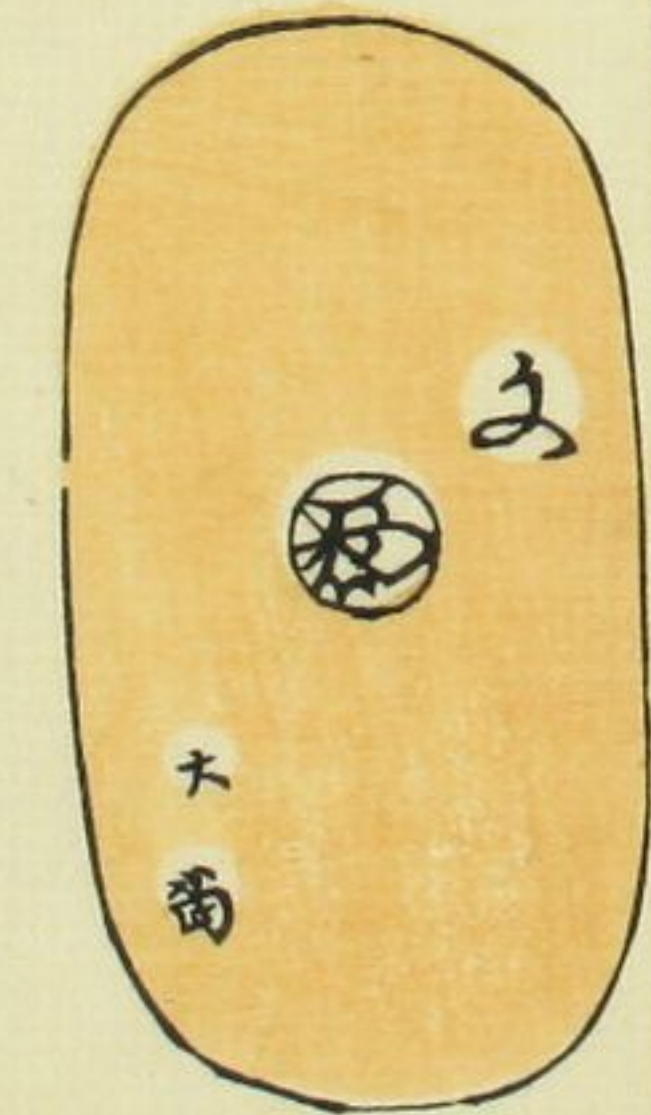
量目一匁七分五厘



文政元年始めて真字二分判金を造る如し、二年草字二分判金を造て之にかゆる、天保十一年不至と通用を止む

文政小判金

量目三匁五分



文政二年改造るものあり、其後天保八年不至と通用を止む

文政壹朱判金

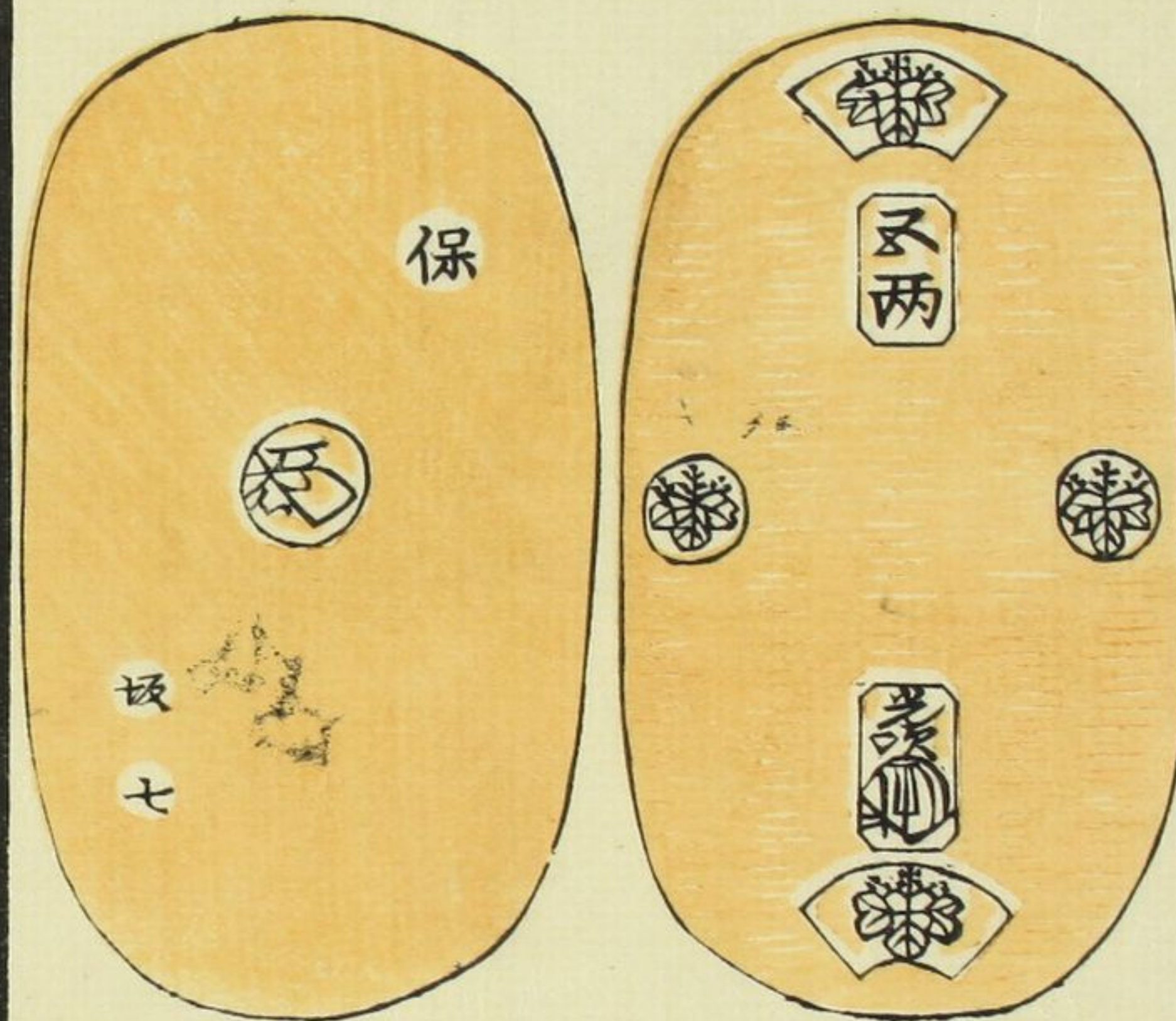
量目二分九厘



文政七年正月始に造る、後天保十一年十月不至と通用を止む

天保五兩判金

量目九匁



天保八年新々之を
 造る其後嘉永七年
 七月ハ至ル通用ト
 与ル也



